



令和6年2月6日

令和5年中の救急出場件数が過去最多を更新

～救急車の適時・適切な利用に引き続きご協力を！～

令和5年中の東京消防庁救急隊の出場件数は917,472件（速報値）で、救急業務を開始した昭和11年以来、過去最多を記録しました。

これまでの最多である令和4年中の出場件数872,075件と比較すると、45,397件、5.2%の増加となりました。

これは、1日あたり2,514件、約34秒に1回の出場があったこととなります。

東京消防庁では、増大する救急需要に適切に対応していくため、救急車の増強整備を図るとともに救急車の適時・適切な利用、「#7119」救急相談センター・東京版救急受診ガイドの活用を呼びかける等、都民の安全・安心のための施策に取り組んでまいります。

救急出場等の傾向

1 出場件数及び年代別搬送人員の推移等について（資料1・3）

令和5年中の東京消防庁救急隊の出場件数及び搬送人員はともに、過去最多を更新しました。

搬送された方を年代別で比較すると、75歳以上の高齢者層は近年増加傾向にあり、令和5年中では312,534人で、全搬送人員（773,342人）の約4割を占めています。

また、75歳以上の高齢者層と0～14歳の小児の層は前年と比較して増加しています。この年齢層をそれぞれ病態別に見ると、高齢者層では「頭部・顔面外傷」・「発熱」・「歩行困難等」の順、小児の層では「痙攣」・「発熱」・「頭部・顔面外傷」の順に高い割合を占めています。

2 現場到着時間について（資料2）

救急隊が出場してから救急現場に到着するまでの時間は、救急出場件数の増加に伴い令和2年から3年連続で延伸しています。令和5年は9分54秒となり過去最長時間となりました。救急出場件数が増えると、現場から遠い救急車の出場が増えるため、一分一秒を争う現場への到着時間の遅れが生じ、救える命が救えなくなる恐れがあります。

引き続き増大する救急需要に対する取組を推進し、現場到着時間の短縮に努めてまいります。また、救急車の適時・適切な利用をお願いいたします。

※ 「現場到着時間」とは、救急隊が出場してから現場到着するまでの時間をいう。

3 初診時軽症割合について（資料3）

救急搬送された方が初診医師により軽症と判断された割合は、平成18年の60.3%をピークに減少し、過去10年間では51～54%台を推移しています。過去最少であった令和3年（51.4%）からは増加傾向にあり、令和5年中は54.2%でした。

結果として軽症であっても、なかには発生時点では緊急に病院へ行くべきか迷うような事態も少なくありません。救急車で行くべきがどうか迷う場合には、医師・看護師が常駐する「#7119」をご活用ください。

※ 「軽症」とは、初診医師により入院を要しないと判断されたものをいう。

4 救急相談センターの受付体制について（資料4）

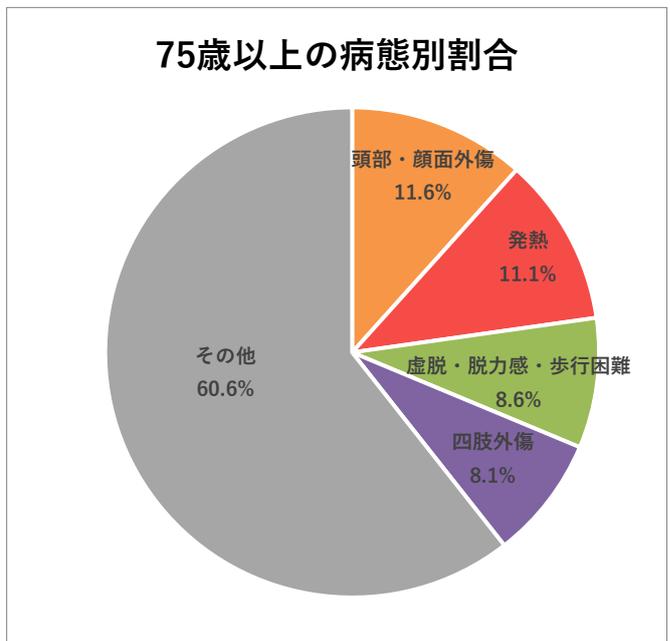
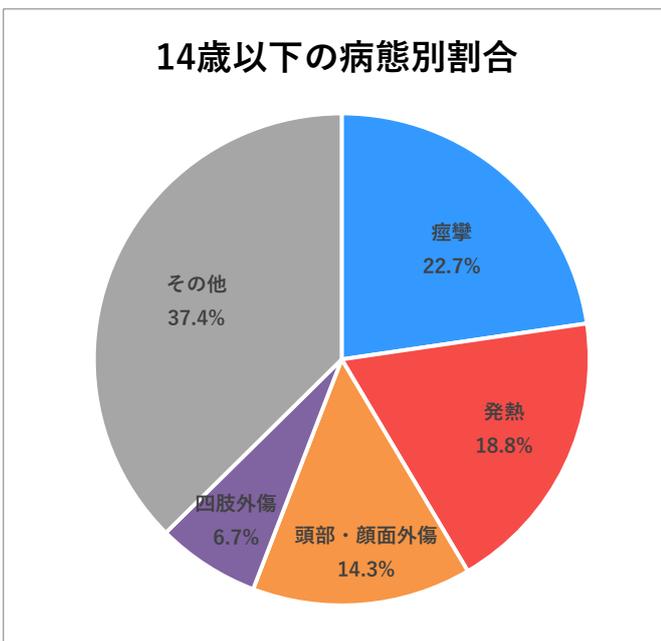
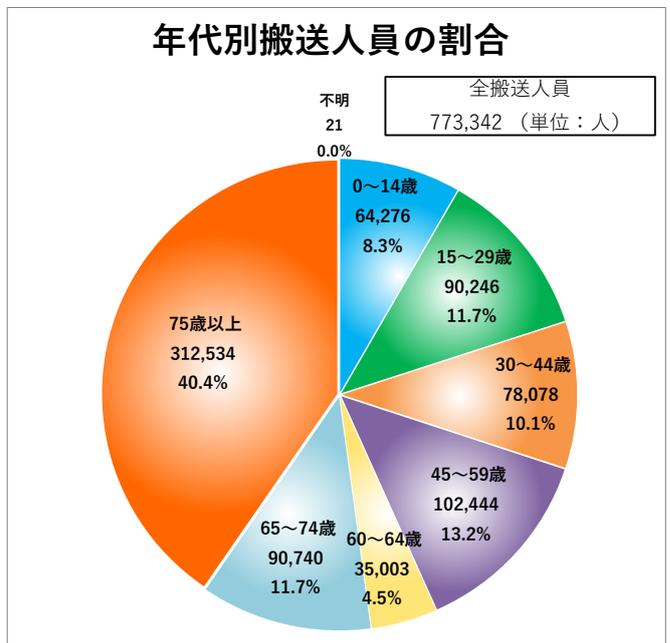
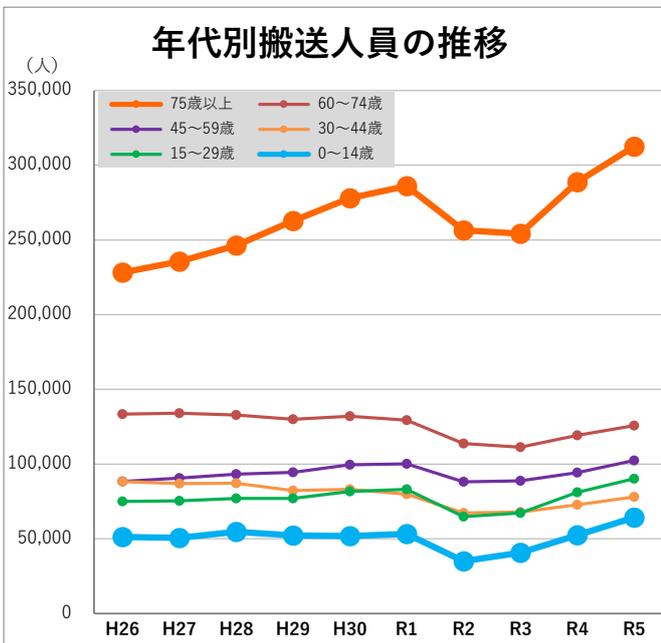
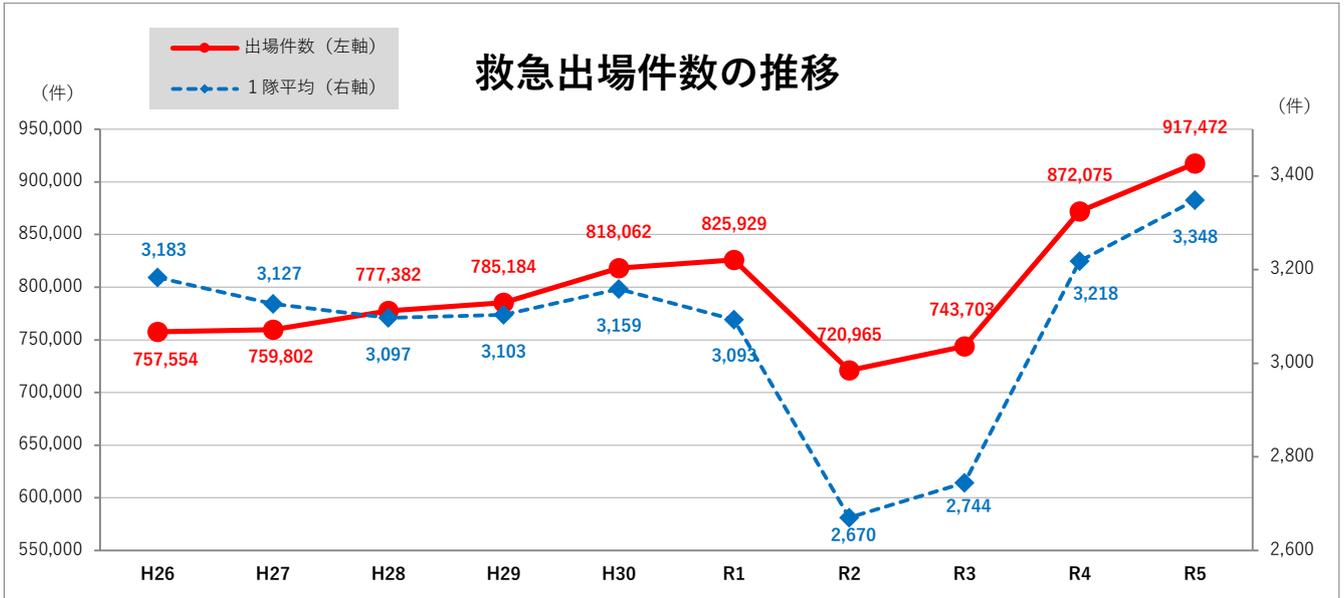
救急車を呼んだ方がいいのか迷った場合の電話相談窓口として、「#7119」東京消防庁救急相談センターを平成19年6月から運用開始しています。24時間・年中無休で「症状に基づく緊急性のアドバイス」、「受診の必要性に関するアドバイス」「医療機関案内」を提供しています。

令和5年中における救急相談センターの受付件数は467,267件、うち救急相談件数は303,102件で、ともに過去最多となりました。多くの都民の方々が利用されており、急な病気やけがをした際の安全・安心を提供しています。

救急相談センターは、入電が増加する繁忙時間帯には相談員を増員し、受付体制を強化して対応しています。また、東京消防庁ホームページから東京版救急受診ガイド（WEB版）もご利用いただけます。

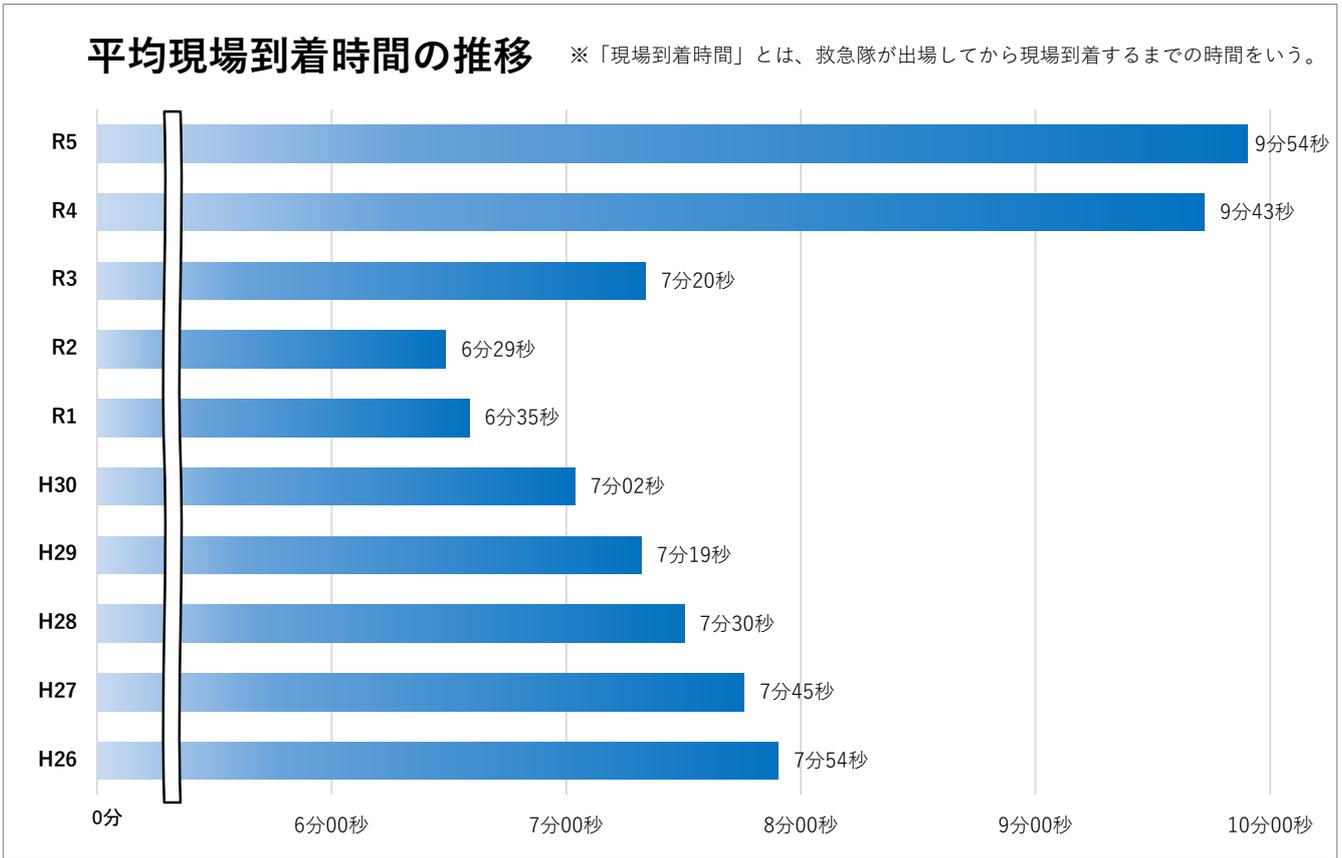
問合せ先

東京消防庁（代）	電話 3212—2111
救急管理課救急情報係	内線 4465
救急医務課救急相談係	内線 4546
広報課報道係	内線 2345



※ 割合を示す数値については、少数第2位を四捨五入しているため必ずしも総数に一致しません。

資料 2



資料 3

